

勝興寺/唐門

この優雅な門には、柔らかく湾曲した破風（唐破風）があり、破風板と垂木には金色の金具が取り付けられています。まぐさや軒下には鳳凰や龍が彫られ、木製の扉には牡丹の透かし彫りが施されています。まぐさの上には「雲龍山」と読める中国文字が書かれた額が掲げられています。これは雲龍山勝興寺という正式名称の一部です。六本柱の門は、高さ 10 メートル以上、幅 6 メートルです。

唐門は、通常、勅使や大名の当主など、賓客の使用に供されたものでした。これらの門を通して、勝興寺の大広間や、それに類する部屋へ出入りすることができました。勝興寺では、唐門はすべての参拝客に利用されていました。唐門は 1769 年に京都の興正寺で建てられたとされ、1893 年に勝興寺に移転されました。この門は重要文化財に指定されています。